

〔文部科学省人権教育研究指定校事業報告〕
自他の生命を大切にし、つながりに生きる生徒の育成

西予市立宇和中学校

1 はじめに

本校の生徒は明るく素直で、何事にも真面目に取り組むことができます。しかし、各種アンケート調査では、自己肯定感があまり高くないという結果が出ています。また、家族と人権問題について語り合ったり、生徒が自らいじめや差別の解決に向けて自信をもって行動したりするまでには至っていませんでした。そこで、道德教育を中心に全教育活動を人権・同和教育の視点で改善・充実させることで、生徒の人権意識を高めるとともに、体験的・実践的活動を通して自己肯定感・自己有用感を育み、自他の生命を大切にする生徒を育成していきたいと考えました。また、家庭・地域・関係諸機関などとの協働を通して「つながり」を大切にした実践を積み上げ、差別解消に主体的に取り組む生徒を育成したいと考えました。

2 研究の実際

(1) 人権が尊重される学習活動づくり（教科指導部会の取組）

ア 人権問題の解決を目指す教育課程の編成

同和問題学習をはじめとする様々な人権学習の推進に向けて、より学習内容が深まるように、年間指導計画を見直しました。これまで行ってきた系統的な学習に加え、個別の人権課題の解決に向けて、各教科との関連や教材を学習する順番などを意識して、配列を考えました。

イ 人権・同和教育に視点を当てた道德科を中心とした授業づくり

日頃から何でも言い合え、認め合える学級の様々な支持的風土を基盤にグループでの話し合いを学習活動に設定し、自己の思いや意見を発信し、他者の思いを受け止めながら、自分事として様々な問題の解決に向かう生徒の育成に取り組みました。

ウ 人権学習の充実

3学年を通して、同和問題をはじめとする様々な人権課題の学習を系統的に行えるよう計画を立て、各学年で授業実践を行いました。

- ・「傍観者でいいのか」（1年道德科-いじめ-）
- ・「決断！ 骨髄バンク移植第一号」（1年道德科-生命尊重-）
- ・「あなたがあなたらしく生きるために～性的マイノリティと人権～」(2年道德科-SOGI-)
- ・「三月三日の風」（2年道德科-同和問題-）
- ・「ある先輩からの手紙」（3年道德科-同和問題-）
- ・「身近なジェンダーバイアスから考える」（3年学級活動-ジェンダー平等-）



【グループでの話し合い】

エ 教職員研修の充実

地域で行われる同和問題について考える学習会をはじめ、様々な研修会に多くの教員が積極的に参加しました。講師を招いての研修にも力を入れ、教師自身が正しい知識を学び、生徒に還元できるよう努めました。

(2) 人権が尊重される人間関係づくり（教科外指導部会の取組）

ア 生徒アンケートによる実態分析

アンケートの結果から、周りから認められたり、誰かの役に立っていたりと感じる経験を増やし、生徒に自信をもたせるとともに、ありのままの自分を受け入れることができるよう教育活動を工夫していく必要があると考えました。

イ 支持的風土のある学級づくり

教師自身が傾聴と受容に努め、生徒一人ひとりに寄り添えるよう心掛けました。その上で、生徒の頑張りを認めたり、学級通信で紹介したりして、学級全体が互いを認め合う雰囲気をつくることを目指しました。

ウ 自己肯定感・自己有用感を高める活動の充実

生徒が、他者から認められ、自分の存在の大切さを実感するとともに、自分で自分を認めることの大切さに気付かせ、自他とよりよい関係を築くことを目指しました。また、自分も他人

もありのまま受け入れることの大切さに気付くとともに、つながりの中で生活していくために何が必要かについて、体験的な学びを通して見つめました。

エ 特別活動における取組

学級活動でGWT（グループワークトレーニング）を行い、互いのよさを認め合い、友達と協力することの大切さや関わり方について気付かせました。「あいさつ日本一」運動や「心を磨く清掃活動」の推進のため、毎朝生徒会役員、生活委員会が中心となって各学級が交代であいさつ運動を行ったり、決められた場所以外の清掃に自主的に取り組むことができるよう工夫したりして、自ら気づき、考え、行動する生徒の育成に努めました。

オ 生徒会活動

集会活動で「宇和中学校思いやり宣言」の内容の見直しをしました。その後、思いやり宣言週間として1週間、朝の会で唱和をし、宣言を意識した言動を呼び掛けたり、終わりの会で宣言を意識した言動ができたかどうかの振り返りを行ったりしました。生徒総会では、集中審議で生徒から提案された「制服について」の話し合いを行い、自ら行動することや相手の意見に真摯に耳を傾けることの大切さを、生徒自身が実感することができるよう努めました。JRC委員会では、「ありがとう」の気持ちをカードに書いて掲示する活動を行ったり、「個性きらめきコーナー」として、生徒の作品を展示・掲示をしたりして、互いの新たな一面への気付きにつながるよう工夫しました。



【個性きらめきコーナー（人権の木）】

(3) 人権が尊重される環境づくり（地域連携部会の取組）

ア 保護者・地域との連携

家庭においても人権について話をするきっかけづくりとなるよう人権参観日を実施し、各学年で授業を公開しました。また、日々の学校生活の様子をホームページや各種通信を通して家庭や地域に積極的に紹介し、生徒の頑張りが多くの人に認められる機会を増やすことで、生徒の自己肯定感や自己有用感につながるよう心掛けました。また、人権課題を自分事として捉え、それを発表する場を設けることで、人権学習の成果が高まると考え、人権劇に取り組み、「宇和町人権のつどい」で発表しました。



【人権劇の様子】

イ 小中高連携を基盤とした系統的・継続的な教育活動

互いのよさを認め合うことができるように、本校特別支援学級の生徒と近隣の県立高等学校の生徒が花の植え替え活動を通して交流を行ったり、本校生徒が特別支援学校に行き、ボッチャで交流を深めたりしました。また、町内の小中学校の代表児童生徒が集まり、「宇和地区いじめストップ子ども会議」での意見交換などを通して、いじめ防止対策に主体的に取り組む態度を養いました。

ウ 総合的な学習の時間における取組

3年生では、社会福祉協議会や地域の福祉施設などと連携し、講話や体験活動を行って、福祉体験学習の充実を図りました。2年生では、地域と連携し、職場体験学習を行い、地域とのつながりの大切さに気付くことができるよう努めました。

3 おわりに

令和4年度文部科学省人権教育研究指定校事業を受けたことにより、改めて、全ての教育活動の人権・同和教育の視点から見直しました。今回の推進体制をもとに明確になった成果と課題を次年度にもつなげ、教職員の心を一つにし、地域の方とも連携しながら、人権感覚を育む教育活動をさらに推進していきたいと思っております。様々な人権課題の解決のために、法制度やハード面の充実に加え、子どもたちの人間関係構築力の向上や「正しく知る」ための学習習慣の確立が必要だと感じています。「他人事から我が事へ」。めまぐるしく変化する社会に対応できるように、本校の「つながりに生きる」精神をより育み、自他の生命を大切に、他者とのつながりを大切に育む人権・同和教育の更なる充実を図りたいと考えています。